

# 第16回教育研究審議会

## 議事概要

日 時 令和2年12月9日(水) 午後4時00分～午後6時03分  
場 所 本部棟3階 大会議室  
出席者 藤田英典学長、杉本光司副学長、田中昌弥副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、佐藤明浩学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、竹島達也研究科委員長、野中潤国文学科長、ハウエル・エヴァンス英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、中村さき子学生課長

藤田学長より挨拶

---

## 2 議 事

### (1) 専任教員の採用について(英文学科)

○担当者から資料1に基づき説明。→2週間の閲覧に供し次回投票。

→選考審査報告書について、学科内での事前書類審査が第1回委員会となっているので修正が必要であり、応募者一覧と報告書記述の番号にも一部誤りがあるため修正が必要。

→コロナ禍の影響などにより多忙な状況であるが、教育研究審議会へ提出前に選考委員会委員へ事前確認が必要である。

→報告書の記載内容の修正が必要となるが、次回審議会開催前に選考委員会委員に事前確認いただき投票前に教育研究審議会でも確認を行い投票するものとする。

### (2) 専任教員の採用について(比較文化学科)

○担当者から資料2に基づき説明。→2週間の閲覧に供し次回投票。

### (3) 特任教員の人事提案について(学校教育学科)

○担当者1及び担当者2から資料3に基づき説明。

→2週間の閲覧に供し次回投票。

→特任教員人事については、採用形態などにより教員選考委員会を設置したりしなかったりであるが、今回はCタイプであり業績などからも選考委員会を設置せず次回投票で良いと考えるが如何か。

→業績なども十分でありCタイプであることから次回投票とする。

### (4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(学校教育学科)

○担当者から資料4-1及び資料4-2に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。→議事(3)と同一の人物であるため次回投票後に改めて提案。

(5) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（英文学科）

○担当者から資料4-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇Gender and Sexuality I・British Culture and history I

◆担当者の職務による減コマのため。

○担当者から資料5-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇イメージ&ジェンダー研究会

新規採用者 ランクC

(6) 令和3年度 開講科目について（学校教育学科）

○担当者から資料6に基づき説明。→提案通り承認。

→担当教員の科目適合性は確認したものであるか。

→学科内において科目適合性も前例などを踏まえ検討、判断した。

→学生に落ち度はなく学生が救済されるため安心したが、今後も同様なことが発生しないよう再度検証など行い対応策を講じておく必要があると考える。

→教職課程があり仕方がない部分はあるが、科目数が大変多いと感じている。そのため全てを教務委員会で確認することに限界が生じている可能性もある。

→学科で再度検証を行い再発防止策の検討結果を報告させていただく。

(7) 令和3年度 非常勤講師授業担当科目について（第6回）

○担当者から資料7に基づき説明。→提案通り承認。

(8) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について（取消 第19回）

○担当者から資料8に基づき説明。→提案通り承認。

→履修学生はどうなるのか。

→専任教員が持ち出しで担当している。

(9) 2021年春学期 交換・協定校留学派遣の判断について（国際交流センター）

○担当者から資料9に基づき説明。→提案通り承認。

→英文学科では事情研修のハワイ大学との留学プログラムについてオンラインでの実施について契約している。他大学との留学プログラムのオンライン実施についてはどのような状況になっているのか。

→現在、センターと事務担当部署と検討中であり次回の教育研究審議会へ提案予定である。

→受け入れについては大学が責任を担うことになるが、体制構築は整っているのか。

茂再確認をするが既に受入が決定している国際教育学科と同様な手法により体制を構築し対応する。

(10) 特任教員の推薦公募について（国際交流センター）

○担当者から資料10に基づき説明。→提案通り承認。

→「主に欧米圏担当の留学業務・・・」の記載と「授業や指導は英語で行う、英語以外の外国語も堪能」と包括的な記載となっているが、英語圏を強調した方が良いのではないか。  
→フランスとの留学も本格的に始動する関係や以前立ち消えとなったドイツも視野にあり英語圏に縛らない柔軟な趣旨である。

→趣旨は十分理解できるが、スペイン・フランスは開拓が進んでおりドイツは需要が不透明であると考ええる。そのため地盤固めとして英語圏に注力した方が良いと考える。

→基本的には英語圏が中心であり、その他の語学圏も広めたいのが趣旨である。なお、応募締め切り日は1月12日とさせていただきたい。

(11) 学部の教育目的（案）について

○担当者から資料11に基づき説明。→一部修正のうえ承認。

→英語表記に一部大文字が残っているので修正が必要である。

(12) 公立大学法人都留文科大学大学共通教育センター規程の一部改正（案）について

○担当者から資料12に基づき説明。→提案通り承認。

(13) 2021年度（令和3年度）学年暦について

○担当者から資料13に基づき説明。→提案通り承認。

(14) その他 ○な し

### 3 報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症等対策本部会議報告について

○担当者1・担当者2・担当者3から資料14-1、資料14-2に基づき対策本部各部門からの状況報告。

(2) その他 ○な し

### 4 閉 会

以 上